

建部大社

建部大社は 8 世紀にまで遡ります。現在の滋賀県に当たる地域の一之宮（第一位の神社）に指定されており、少なくとも平安時代（794～1185）以降この特別な地位を保っています。この神社は、日本の皇位の象徴の一つとみなされている魔法の剣を使いこなした武勇に長ける伝説的な皇子、ヤマトタケルを祀っています。ヤマトタケルを祀る神社は日本全国にたくさんありますが、建部大社はその最古の一つです。

本殿の前に杉の木が 3 本まとまって立っています。この 3 本の木は神社のシンボルで、神聖なものとみなされています。メインの建物の両側にある 8 つの小さな社は別々の神格を祀っており、ヤマトタケル社を補完しています。

建部大社には宝物殿があり、平安時代に制作された神道の神の像が飾られています。古代の制作品が重要文化財に指定されています。神輿（持ち運びできる社）も展示されており、年に一度、8 月 17 日に行われる船幸祭で実際に使用されます。